

IV-206 緑に関する住民意識と行動の分析

東京都立大学 学生員 小 島 淳
東京都立大学 正 員 山 川 仁

1. はじめに

1-1 研究の目的

都市の少ない緑をより有効に活用するために、住民の要望を取り入れた緑空間の整備が必要になり、緑意識を把握することが急がれた。これまでに緑意識に着目した研究は数多く行なわれてきたが、¹⁾ 緑に接する行動についての研究は少ない。

本研究では、都市の住民が日常生活の中で緑をどのように意識し、実際にどのような場所へ緑を求めて行動しているのかを知り、住民の求める緑空間を把握することを目的とする。

1-2 研究の方法

意識調査では住民の緑に関する意識と緑に関する行動に分け、地図等からの計測結果を交えて住民の緑に関する行動を把握する。

(1) 緑の分類と定義

本論では緑を図-1のように分類した。緑を私的な緑(庭・生け垣など宅地内の緑)と公的な緑(公園・緑道・神社や寺の境内などの緑・街路樹)に分けた。公的な緑空間で緑に接したり、ふれ合ったりして緑と親しむことを『緑行動』と定義した。

(2) 意識調査

意識調査は表-1の通りに行なった。

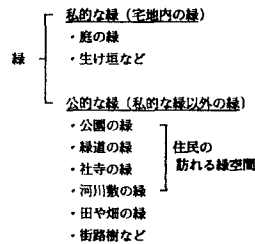


図-1 緑の分類と定義

表-1 意識調査

期間	1988年12月～1989年1月
調査対象	1280
調査方法	アンケート留め置き
有効サンプル数	331 (25.9%)
回収率	26.7%

表-2 調査地区概要

地区名	対象地区	特 徴
戸 建	中野5丁目 赤坂7丁目	住宅形式 戸 建 土地利用 住宅地区 緑 多い
集 合	中野5丁目	住宅形式 集 合 土地利用 住宅地区 緑 多い
高 層	神上2丁目	住宅形式 高 層 土地利用 複合地区 緑 少ない

戸 建	(36.8%)	(6.8%)
集 合	(9.4%)	(15.4%)
高 層	(8.8%)	(11.6%)

図-2 地区別・意識する緑(公的か私的か)

表-3 緑の多少感・満足感と緑被率

地区	緑被率(%)	多少感(%)	満足感(%)
戸 建	15.6	65.0	52.0
集 合	44.0	79.3	65.8
高 層	3.2	11.3	9.3

2. 住民の緑に関する意識の分析

2-1. 住民の意識する緑

住民の意識する緑は全体的に公的な緑を意識する人が多い。地区別に見ると、図-2に示すように公的な緑を意識する人が集合住宅地区では94.6%にも達する。一戸建てに住む人について庭の有無別に意識する緑をみると、庭を所有している人は所有していない人よりも私的な緑を意識する率が高い。

2-2. 緑の多少感と満足感

居住している地区の「緑が多い」と答えた人の全回答者に対する比率を多少感、「緑に満足」と答えた人の全回答者に対する比率を満足感として地区別

に緑被率との関連を見ると表-3に示すとおり多少感と緑被率の間には強い関連性が見られた。また、緑の多少感と満足感は表-4に示すようにかなりの相関がある。しかし

「緑が多い」と答えた人の約20%の人は「緑に不満」と答えている。

表-4 緑の多少感と満足感

	満足	不満	どちらとも	合計
多い	128	33	18	179
少ない	2	88	7	97
どちらとも	14	25	11	50
合計	144	146	36	326

緑の満足感を外的基準にして数量化Ⅱ類で分析した結果を表-5に示す。もっとも強い要因は緑の多少感であり、庭の広さも関連が強く、緑行動を多くする人ほど満足する傾向にあった。

